

# 富士山！万歳！！

8月21日（木） ～ 8月24日（日）

IN 国立中央青少年交流の家～赤岩八合館

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	施設に到着	作戦会議
2日目	荷造り・出発	富士登山	山荘到着
3日目	山頂出発・下山開始	施設到着・片付け	振り返り
4日目	施設清掃・施設を出発	施設見学・解散	

**一日目：** おはようございます。今年も日本一に挑戦する日がやってきました。今回は少し多く、総勢25名でチャレンジします。各集合から続々と揃い、京都にて全体集合をしました。バスの座席は初めましての方と座るようにし、全員がコミュニケーションを取れるよう促しました。過去に登った事のある方は、初めての方をリードし、誰一人漏れる事なく、チーム形成を心掛けました。昼過ぎに静岡県に入り、富士宮市に近付いてくると、眼前に富士山が見えてきました。思っていたよりも大きく、あの頂上に向かう事に戸惑いを隠せない様子でした。夕方に施設に到着し、早速荷物の搬入と整理を行いました。夕食、入浴を済ませたら、富士登山に向けての作戦会議です。何を持っていけばいいのか、どう詰めればいいのか、自分はどの程度背負う事が出来るのか、など、経験者の話を頼りに試行錯誤、取捨選択をされていました。少しずつ緊張感が増えてきていますが、まだまだ少ないです。明日の登山開始までに各自高めていただきます。

**二日目：** おはようございます。朝の空模様は、雲はなく、富士山が正面に見えています。朝食を済ませたら、登山に向けての準備に取り掛かります。服装について、登山中の気温を踏まえ、どれを準備しようか悩み、嵩張ってしまうと、減らすことに悩み考えておられました。持ち物も然りで、リーダーにチェックをもらい入っていないものがあると、それを詰めて背負い、背負い心地を確認しました。どれだけ準備しても不安な様子が伺えました。そして出発の時がきました。“水ヶ塚”までバスで向かい、そこからシャトルバスに乗り換え、富士山五合目まで一気に上がりました。バスを降りると、これまでの暑さはなく、既に肌寒さを感じるほどでした。いきなり登るのではなく、空気の薄さに体を慣らすために、休憩と昼食を取りました。一時間程して、ついに登山スタートです。この時のみんなの表情には笑顔は見られず、不安や緊張、意気込みが見られる表情でした。隊列の並びを決め、一步一步登って行きます。ペースが掴めてくると、徐々に登山を楽しむ余裕が出てきた様子で、六合目辺りまでは、メンバー同士談笑しながら登る姿も見られました。ここまでは足並みが大きく乱れることはありませんでしたが、七合目に近づくとペースが遅れるメンバーが増え始めました。休憩を挟む度に隊列を組み直し、毎回ベストな編成で登れるよう試行錯誤しながら全員で歩みを進めます。心身共に疲れが出てくる場面で全体の支えとなったのは、やはり経験者の【声掛け】でした。過去の富士登山での経験を通して、辛い時の声の掛け合い、助け合いの重要性を学んでいるからこそ、人一倍声を大きくして全体を鼓舞しておられました。初めて富士登山に挑戦するメンバーも、前を歩くメンバーの背中を押したり、荷物を分け合ったりして、お互いに助け合って登る姿がありました。登山前にみんなでセレクトした音楽を流し、一体感を感じながら一丸となって登る中、宿泊する



“赤岩八合館”が見えてきました。最後の力を振り絞って進み、結果的に一人もダウンすることなく、山荘に辿り着くことが出来ました。空はまだ明るく、例年よりも早いペースでの到着でした。山荘で休憩をした後、夕食をいただきました。山荘名物のカレーです。おかわり自由なのですが、食べ過ぎると後々しんどいので、程よくいただきました。疲れた体にカレーが非常に染み、つい沢山おかわりをし、食べ過ぎる方もおられました。夕食後は、山頂に向けての準備を行いました。必要ないものは山荘に置いていくのですが、これまでの経験から、ご自身で考え、荷物の詰め込みをさせていました。それが終わった人から布団に入り、休まれました。すぐに寝息が聞こえてきた方がおられれば、なかなか寝付きにくい方もおられましたが、消灯後は全員休まれました。



**三日目：** 夜中1時30分に起床です。一人一人起こし、体調確認をしたところ、皆から「大丈夫！登る！！」と力強い言葉を聞くことが出来ました。着替え、準備を進め、予定より早く出発となりました。辺りは真っ暗なので、ヘッドライトを頼りに進んでいきます。荷物は軽いですが前日の疲労が蓄積しており、足取りは重たいです。だからこそ、声掛けを沢山行い、お互い士気を高め合いました。それでも心が折れそうになった時は、登山前に自分へ向けて書いたメッセージを読んで、元気を出す方もおられました。暗闇の中をひたすら進み、鳥居が見えてくると山頂はもうすぐです。鳥居をくぐった瞬間の皆の表情には、喜びと安堵が伺えました。御来光スポットへ移動し、日の出を待ちます。疲れがピークに達し、眠気と必死で戦っていた方もおられました。待ちに待った日の出の瞬間。山頂まで登った人にしか見られない絶景が、そこにはありました。今年雨風もなく、最高のコンディションで御来光を見ることが出来ました。しばし余韻に浸った後、続いて、最高峰の“剣ヶ峰”へと向かいます。上り坂を一気に登ると、石碑には記念撮影の長蛇の列が出来ており、軽食として持参したおやつを食べながら順番を待ちました。みんなで分け合いながら最高峰で食べるおやつは、また格別でした。一時間近く待ってようやく順番が回ってきました。全員で石碑に立つと、日本一に到達した達成感が一気に込み上げてきました。無事に記念撮影を終え、束の間のお土産購入タイムです。売店には山頂でしか買えないアイテムが揃っているため、よく吟味して購入しておられました。太陽がしっかりと顔を出し、山頂の気温も上がってきた頃、準備を整えて下山開始です。山頂付近はよく晴れており、雲の上を歩いている感覚が一層強く、より景色を楽しみながら下って行きました。無事に山荘に戻ってくることが出来ました。山荘のスタッフ皆さんが温かく迎えてくださり、皆の表情から緊張がほぐれたようでした。朝食をいただき、少し休憩を挟んだら、下山となります。山荘皆さんに御礼を伝え、出発しました。下りは登りよりも早く降りられますが、滑ったり、踏み外したりしないよう、足元を十分気を付けながら歩きました。登りとは違うルートで、“大砂走り”を通して帰ります。御殿場ルートは永遠と続く蛇腹道ですが、その横を一直線に下るショートカットルートです。また、道は砂で出来ているので、軽快に走りながら下ることが出来ます。希望者を募り、大砂走りを体験していただきました。足を砂に取られながらも、笑顔で走り抜け、とても楽しそうでした。大砂走りを抜けると、“宝永山”の横を経由した【プリンスルート】で下っていきます。途中、何度か休憩をし、六合目に戻ってきました。「もうすぐ戻れる。」と安心感から、元気が戻ってきたようです。また、これから登られる方に対して、挨拶を積極的にし、元気を分け与えておられました。そしてついに、出発地の五合目に戻ってきました。あまり疲れの色は見られませんでした。シャトルバスに乗車すると、漏れ無く全員休まれました。水ヶ塚に戻り、バ

スを乗り換え、長きに渡る富士登山を終えました。施設に戻る前に麓のイオンに向かい、頑張った自分にご褒美を購入しました。アイスやジュースなど、食べたかったものを購入しました。施設に戻ると、使った備品の片付けを行いました。富士山を経て皆の動きが機敏になっており、テキパキと進めることが出来ました。二日ぶり、登山帰りの入浴は体に染み、じっくり疲れを癒しました。夜は、これまで撮った写真を皆で振り返りました。施設へ向かう道中からの写真なので、表情の変化や仲間づくりの形成の過程が伺えました。二日前の事ですが、既に懐かしさを感じました。視聴会の後、一人一人発表をしてもらいました。内容は、「富士山から見た新たな自分」と「また富士山に登りたいか」です。事前に発表内容を伝えており、全員よく考えた想いを発しておられました。こうして長い一日が終わりました。夜は消灯する前から寝ている方もおられ、即就寝されました。



**四日目：** 昨日までの激動とは違う、ゆっくりとした朝でした。富士山から帰ってきたメンバー達は、こちらが言うまでもなく、着替え、準備、片付けなど自ら進んで動いておられました。退所の準備を進めます。声を掛け合い、掃除も速やかにされていました。施設を退所した後は、頑張ったご褒美として、プールに行きました。時間にして二時間程ですが、これまでとは違い、非常にリラックスをされた楽しんでいる表情でした。プールを存分に楽しんだ後、バスに乗り、関西に戻りました。途中のSAにて、昼食とお土産購入を済ませました。富士山の下山中、六合目にて、地元の方からサービスで静岡茶をいただき、それがとても美味しかったので、茶葉を購入されている方もおられました。帰りは歌を唄ったり、DVDを観たり、談笑したり、休んだりして、あっという間に関西に戻ってきました。京都で全体解散をする際、今回一緒に挑んだ仲間と別れる事に寂しさを感じ、友達の名前を何度も呼ばれる光景がありました。頑張りや辛さ、感動、楽しさを共有したからこそ感じる事が出来る想いです。全体解散後、各解散場所へ向かいました。親御様のお迎えに、全ての緊張が解けたようで、笑顔で帰路につかれました。本当にお疲れ様でした。



## <キャンプ総括>

今年の富士登山は、これまでになかった最高に整った形で迎える事が出来ました。登山中の天候はあまり日射しがなく、気持ち良く進むことが出来ました。夜の山頂へのアタックも気温は低くなく、風も少なかった為、非常に登りやすい状況でした。今回登山に臨んだ25名の士気は高く、「山頂に行く!」という想い抱き、登られていました。ここまでの条件は過去にもありました。今年はこれらに加え、『必ず全員で!!』と固い意思を持っておられ、『目的達成への向かい方』が揃っていたと感じます。ゆえに、終始皆から生まれるパワーは非常に強く、一人一人の背中に全員の想いが乗っていたと感じました。絶対に個人では出せないものであり、この力強さがなければ、六合目でストップされる方もおられたと思います。私は、皆の後ろを追隨していましたが、距離は離される一方で、結果として六合目到着に45分も差が生まれました。体調不良にて全員登頂は出来ませんでした。それでも皆の頑張りは本当に素晴らしく、メンバーの底力を見せていただきました。今年の富士登山は、皆さんにとって、必ず人生の糧になるはず。富士山を経て、大いにご成長をしていただき、一年後大きくなられた皆さんとまた登れる事を楽しみにしています。

(竹中 哲郎)